

当院にて精神科デイホスピタルへ通所された方へ

当院では日常の診療で得られた臨床情報を元に、精神疾患の性質・経過・予後などを分析します。また、デイホスピタルで行われる心理社会的治療の効果などを研究します。将来的により良い心理社会的治療法を開発し、精神医学・精神科リハビリテーションの発展に寄与することを目的とします。

【精神科デイホスピタルでのリハビリテーションに関する後ろ向きの疫学的研究】（審査番号 2893-（1））

【研究機関名及び本学の研究責任者氏名】

この研究が行われる研究機関と研究責任者は次に示すとおりです。

研究機関 東京大学医学部附属病院
研究責任者 管心・リハビリテーション部・助教
担当業務 データ収集・匿名化

【研究期間】

東京大学の倫理委員会からの承認後より開始し、2020年6月27日まで実施します。

【対象となる方】

東大デイホスピタルにこれまでに通所された方です。

【研究の意義】

精神疾患の治療においては薬物療法やデイケアでの心理社会的療法を組み合わせることが有効といわれていますが、デイケアに参加された方がどのくらい回復されるのかはまだ分かっていません。

【研究の目的】

精神障害者のリハビリテーションの治療計画、改善の評価、新しいリハビリテーションの手法の考案には、検査および病状改善、および終了時の転帰などが必要となります。本研究では過去に用いられたこれらの手法および検査結果について、加療の方針と手法、効果、経過を後ろ向きに評価し、それによって臨床的な知見を得ることを目的とします。

【研究の方法】

この研究は、東京大学医学部倫理委員会の承認を受け、東京大学医学部附属病院長の許可を受けて実施するものです。これまでの精神科やデイホスピタルでの診療でカルテに記録されている臨床情報、生活情報、身体的健康、心理検査などのデータを収集して行う研究です。特に患者さんに新たにご負担いただくことはありません。

【個人情報の保護】

この研究に関わって収集される試料や情報・データ等は、外部に漏えいすることのないよう、慎重に取り扱う必要があります。あなたのカルテ調査から得られた情報は、氏名・生年月日等の個人情報を削り、代わりに新しく符号をつけ、どなたのものか分からないようにします。東京大学医学部附属病院においては研究責任者・管心が、デイホスピタル内の鍵のかかるロッカーに入れたパスワードロックをかけたパソコンで厳重に保管します。

なお、必要な場合には、当研究室においてこの符号を元の氏名等に戻す操作を行い、結果をあなたにお知らせすることもできます。

また研究が問題なく遂行されていることを確認するため、研究参加者の秘密が保全されることを前提に、モニタリングに従事する者、監査に従事する者、倫理委員会が必要な範囲内で研究参加者に関する試料・情報を閲覧することがあります。

この研究のためにご自分のデータを使用してほしくない場合は主治医にお伝えいただくか、下記の連絡先まで2017年8月31日までにご連絡ください。ご連絡をいただかなかった場合、ご了承いただいたものとさせていただきます。

研究結果は、個人が特定出来ない形式で学会や論文等で発表されます。収集したデータは厳重な管理のもと、研究終了後5年間保存されます。なお研究データを統計データとしてまとめたものについてはお問い合わせがあれば開示いたしますので下記までご連絡ください。ご不明な点がございましたら主治医または連絡先へお尋ねください。

この研究に関する費用は、東京大学医学部附属病院の運営費から支出されています。
本研究に関して、開示すべき利益相反関係はありません。
尚、あなたへの謝金はございません。

2017年5月31日

【連絡先】

研究責任者：管心

連絡担当者：藤枝由美子

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学医学部附属病院・リハビリテーション部・精神科デイホスピタル

Tel: 03-3815-5411 (内線 33620/33621)